

## 視点(1832)

### 経済と流通と弾力性指数!!

(流通経済編)

モダン消費時代・ポストモダン消費時代・ニューモダン消費時代の経済と消費の成熟したレベルによって「所得と消費の関係」「消費と各財・サービス(支出項目)の関係」「価格と需要(ニーズ)の関係」が異なります。

モダン消費時代は「モノを買い、消費し、使用し、所有することの連続性に喜びを感じる生活向上志向の消費」ですが、ポストモダン消費やニューモダン消費時代は「モノ離れた後の21世紀志向の生活創造志向の消費」であり、消費者の購買動機や買物志向が異なります。

今回は「広義のモノに関する弾力性指数」と流通との関連性を解析します。経済上の「弾力性指数」とは、「所得や消費や価格の変化」により、どのように「需要が変化」するか指数であり、「流通経済」(流通や小売サービスやSC等を経済の面から分析)にとって重要な指数です。

流通経済に関する「弾力性指数」には次の3つがあります。

#### (1) 所得弾力性

所得が1%変化した時に、需要が何%変化するか指数で次の算式で求められます。

$$\text{所得弾力性} = \frac{\text{需要の変化率}}{\text{所得の変化率}}$$

- ・生活必需ニーズの所得弾力性は「1」より小さい
- ・選択的ニーズの所得弾力性は「1」より大きい
- ・前世的ニーズ(一昔前のニーズ)の所得弾力性はマイナス

#### (2) 消費(支出)弾力性

消費(支出)が1%変化した時に、各財・サービスの支出(支出項目)が何%変化するか指数で次の算式で求められます。

$$\text{消費(支出)弾力性} = \frac{\text{各財・サービスの支出の変化率}}{\text{消費(支出)の変化率}}$$

- ・生活必需ニーズの消費(支出)弾力性は「1」より小さい
- ・選択的ニーズの消費(支出)弾力性は「1」より大きい
- ・前世的ニーズ(一昔前のニーズ)の消費(支出)弾力性はマイナス

支出項目(各財・サービス支出・広義のモノ支出)									
各財支出(モノ支出)					サービス支出(非モノ支出)				
小売向け支出					飲食サービス支出	生活サービス支出	情報サービス支出	アミューズメントサービス支出	カルチャーサービス支出
食関連支出	衣・身の回り品関連支出	住関連支出	遊関連支出	文化関連支出					

#### (3) 価格弾力性

価格が1%変化した時に、需要が何%変化するか指数で次の算式で求められます。

$$\text{価格弾力性} = \frac{\text{需要の変化率}}{\text{価格の変化率}}$$

- ・生活必需ニーズの価格弾力性は「1」より小さい
- ・選択的ニーズの価格弾力性は「1」より大きい
- ・前世的ニーズ(一昔前のニーズ)の価格弾力性はマイナス

以上の伝統的経済学上の指数は「モダン消費時代」の基準的数値であり、モノ離れた後のポストモダン消費時代やニューモダン消費時代には「所得」や「消費(支出)」や「価格」によって消費が変化することが希薄化しています。

すなわち、

- ① 所得が増大しても需要は「1」以下の弾力性
- ② 消費(支出)が増大しても支出項目は「1」以下の弾力性
- ③ 価格に影響される需要や支出の関係は希薄化

しており、モノ離れた後のポストモダン消費やニューモダン消費においては、所得増や消費増及び価格変化により、「需要増」は起こりにくく、仮に起こっても、低い所得志向となります。アベノミクスの出口が心配です(六車流:流通マーケティング理論)。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六車秀之